

## モザンビーク活動報告

# アフリカ大陸 ソファラ州 モザンビーク 首都マプト

## 守られるべき子どもの権利

#### - 児童婚をなくすための学校の取り組みー

モザンビークでは、半数近くの子どもたちが小学校を 卒業できておらず、貧しい農村部ではその数はさらに 多くなります。子どもたちを中退に追い込む大きな要 因の一つが、児童婚です。

ソファラ州シバババ地区で暮らすルシア・マヌエル・ フィリペさん(15歳)は、父親が決めた結婚を理由に、 マササンへ小学校をやめなければならなくなりました。 しかし、ルシアさんの状況を知った担任の先生は直ち に校長に報告。学校運営委員会のメンバーや地域の リーダーが教育の重要性について父親を説得した結 果、ルシアさんは結婚をせずに学校で勉強を続けら れることになりました。「学校運営委員会は、子どもた



トマース・フェルナンド・ ムガドゥイ会長

ちの未来を脅かす慣習は必要 ないと考えます」と話すのは、 トマース・フェルナンド・ムガ ドゥイ会長です。

児童婚をはじめとする子ども への暴力に対する効果的な対 応策として、モザンビーク政府 は2020年、学校にVAC\*照会 メカニズムという仕組みを取 り入れました。暴力を経験した 子どもや結婚している子ども が、警察や保健所、学校からの 必要なサービスを受けられる

よう、あるいはそのような状況にある子どもを知って いる子どもが通報できるようにするための仕組みです。 ※Violence Against Childrenの略で、「子どもへの暴力」の意

ユニセフはソファラ州教育 局とともに、児童婚を含む 暴力を防ぐことができるよ う、学校における同メカニ ズムの適切な運用につい て、教育関係者と学校運営 委員会のメンバーに研修を 実施しています。また、児童 が参加する学校クラブで は、自分の身を守ると同時 に、学校や地域で友だちを



フィリペ・パウロ校長

手助けできるための知識を伝えています。

「子どもたちが長く欠席している理由が結婚だと判明 した場合、学校側は学校運営委員会に報告し、地域の リーダーとともに解決に向けて取り組みます。それで も、子どもを結婚させるために親同士が協力し合うの で、結婚を止めることは非常に難しいです」とマササン ヘ小学校のフィリペ・パウロ校長は話します。

ムガドゥイ会長とパウロ校長は、児童婚を強いられる 子どもがいなくなる未来を実現するため、奮闘してい ます。

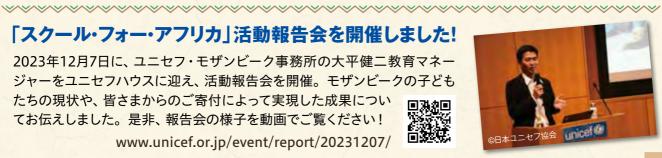
写真: すべて©Abilio Cossa, Maria Dulce and Masatake Harada

### 「スクール・フォー・アフリカ」活動報告会を開催しました!

2023年12月7日に、ユニセフ・モザンビーク事務所の大平健二教育マネー ジャーをユニセフハウスに迎え、活動報告会を開催。モザンビークの子ども たちの現状や、皆さまからのご寄付によって実現した成果につい 回戏规图 てお伝えしました。是非、報告会の様子を動画でご覧ください!

www.unicef.or.jp/event/report/20231207/





発行日: 2024年4月1日

発行者:公益財団法人 日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

**○○ 0120-88-1052** (通話料無料) 【受付時間】平日9:00~17:00

スクール・フォー・アフリカ 特設サイト www.unicef.or.jp/sfa/report/





unicef